

報 告

NPO 法人ケアリフォームシステム研究会 第 22 回全国大会 in さいたま

白石 充

NPO 法人ケアリフォームシステム研究会 代表理事

1. はじめに

NPO 法人ケアリフォームシステム研究会（以下、本会）は、障害児者や高齢者の住環境整備を推進する団体として、毎年全国大会を開催している。本大会は、会員間の知見共有と地域との連携強化を目的として、障害のある方々の生活の向上に資する取り組みを紹介する場である。第 22 回大会は、2025 年 4 月 21 日にさいたま市ソニックシティで開催された。例年と異なり、前日には東京・平和島で行われた、子どものための福祉機器展「キッズフェスタ 2025」の見学を組み込み、本会の参加者に最新の福祉機器と実際に会場の状況を見学してもらう機会とした。



図 1 会場の様子

2. 大会概要

「キッズフェスタ 2025」は、障害児向け福祉機器を体験できる展示会で、2 日間で約 1 万人が来場する。本会の関東会員で、障害児の住環境整備の重要性を伝える為、昇降機やリフトの体験と施工

例パネルの展示を行っており、本会参加者からは「これほど多くの障害児家族が来場していることに驚いた」との声が聞かれた。翌日の全国大会本体は、リハビリテーション工学研究者、自治体職員、福祉関係者、当事者団体、当事者家族など、多様な立場から約 100 名が参加した。



図 2 会員の集合写真

3. 内容

大会は、午前中は本会会員のみで、施工事例の発表や本会の課題を掲げて、それに沿ってのグループディスカッションを行い、今後の本会の方向性を共有した。午後からは、一般の方にも参加いただき、特別支援学校教員で防災士の斎藤朝子氏による「障がい児を守る！防災時の備え」と題した講演で開幕した。続いて会員による「災害時の住宅避難の心構え」に関する講演を行い、災害時における住環境整備の重要性を共有した。その後、ファシリテーターを本会顧問の松尾清美氏にお願いして、当事者家族会代表、医療的ケア児担当の県職員、防災士、工務店代表らによるパネルディスカッションを実施した。会場からも活発な質問や意見が寄せられ、各参加者が自身の立場から災害対策を真剣に検討する姿勢が伝わった。アンケートでは「建築

に携わる団体が障害児の災害について、これほど真剣に考えてくれていることに感激した」との声が多く寄せられた。

4. おわりに

災害時における対応策は、一義的な答えがある訳ではない。しかし、本大会は会員と地域住民が協力して備えを考え、実践するきっかけとなる場となった。今後も本会は住環境整備の専門性を活か

し、障害児者とそのご家族や支援者が、安心して暮らせる社会の実現に向けた取り組みを継続していく。今回の大会では、災害時対応における建築・医療・福祉の連携の重要性を再確認する契機となり、地域社会における実践的な知見の築盛に寄与するものである。

(本稿で使用している写真は承諾を得て掲載しております。)